

4. 現代芸術の国際展部会 in 横浜市

現在、ビエンナーレやトリエンナーレなどの現代芸術の国際展が各地で開催されているが、まだノウハウの蓄積が十分ではないため、運営や組織の面で共通の課題を抱えている。

そこで、国際展部会ミーティングを開催し、国際展に携わる自治体等の職員が課題やノウハウを共有することで、各国際展の発展的な継続開催を目指す。

今回は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、国内外で芸術祭の中止や延期が相次ぐ中で開催を決定した、横浜市の「ヨコハマトリエンナーレ 2020」の事例を通じて、新たな課題やノウハウ等を共有した。

日 時	令和2年8月24日（月）、25日（火）
会 場	横浜美術館 レクチャーホール ほか
主 催	横浜市
共 催	文化庁、創造都市ネットワーク日本
参加人数	現地 8人 オンライン 7人
次 第	<p>▽8月24日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨコハマトリエンナーレ 2020 視察（横浜美術館・プロット48） <p>▽8月25日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催者あいさつ ／安井 昌博氏（文化庁地域文化創生本部 チーフ） ・開催地あいさつ ／神部 浩氏（横浜市文化観光局長） ・基調講演 「コロナ禍における国際展の意義」 ／蔵屋 美香氏（横浜美術館館長） ・事例紹介／担当者ミーティング 「ヨコハマトリエンナーレ 2020における新型コロナウイルス感染症対策」 ／丸山 晶子氏（横浜市文化観光局文化プログラム推進課 係長） ・講評 ／佐々木 雅幸氏（創造都市ネットワーク日本顧問） ・横浜市新市庁舎視察（横浜市役所） ・オプション（自由視察）（日本郵船歴史博物館・象の鼻テラス など）

【概要】

文化庁及び横浜市から開会挨拶後、横浜美術館長の蔵屋氏より「コロナ禍における国際展の意義」と題した基調講演を行った。今回の「ヨコハマトリエンナーレ」の見どころを紹介した後、コロナ禍の中での開催までの経緯を報告した。

(基調講演要旨)

作品の展示設置においても三密状態にならないよう、1日に活動できる人数を減らすために準備期間を引き延ばして対応し、またアルコール消毒液やマスクの準備、時間指定の予約制システムを取り入れるといった工夫に取り組んできた。

また、海外アーティストが日本に来日出来なくなったため、Skype や ZOOM を使い、アーティストの指示で遠隔操作を行いながら展示の位置を確認する等の作業を行った。このような工夫により、ヨコハマトリエンナーレの開催につながった。

続いて担当者ミーティングが開催され、横浜市の丸山氏より「ヨコハマトリエンナーレ 2020 における新型コロナウイルス感染症対策」と題した事例紹介を行った。具体的には、①開幕決定の判断、②参考にしたガイドライン等、③ヨコハマトリエンナーレ 2020 におけるコロナ対策の基本、④作品ごとのコロナ対策、⑤それ以外の対策、⑥開幕後の微修正、⑦コロナ対策の課題の7点について説明した。

最後に佐々木顧問が講評を行った。

(講評要旨)

絶えず新しい事業にチャレンジし、成功してきた横浜市が、コロナ禍においてヨコハマトリエンナーレを中止するのではなく、このような時だからこそチャレンジしたことが(今回のヨコハマトリエンナーレのテーマである「毒」に対する)光となった。



現代芸術の国際展部会の様子